



2000年。初めてのイベントは自宅でのミニコンサート。この頃、生徒として通っていた子どもたちが今は親となり、自分の子どもたちをかわせている



2020年9月に開催した20周年イベント。コロナ禍のなか、開催はとても悩んだが、大きな会場でソーシャルディスタンスを保ちながら行うということでアリオス中劇場で開催。最後は参加者と会場全員で「いのちのうた」(作詞・作曲: 竹内まりや)を合唱した



▲ヤマハ後楽園センターで開講しているセレモニー演奏のための講座には、全国から多くの受講者が集まる

◀セレモニー演奏を全国に広めるためにキーボードを背負い、東京へ何度も通っていた。公共交通機関で移動をしていたので、「どうせなら看板を付けてしまおう」と装着。「歩く広告塔」と言われていた



現在試験に合格した会員は全国に100名いる。失敗の許されない場での仕事となるため、試験の難易度は高い

### Emotion音楽教室

流行りの曲を弾きたい、サプライズで演奏したい、幼稚園の先生になりたい、など個人の目標に合わせた多彩なレッスンコースを展開しています。子どもから大人まで誰もが楽しくレッスンできます。基本のコースでは1年半に1回、発表会を開催します。

■問合せ/ ☎0246-62-8886  
■発表会予定日/ 6月6日 アリオス小ホール



**打合せができないセレモニー  
今でも緊張感は途切れない**

音楽教室も軌道に乗り、セレモニープレイヤーとの両立が多忙を極めた頃、東日本震災がありアルバイトの依頼が激減した。しかし鈴木さんは「こんな時だからこそ、生演奏の心に響く音色で故人を偲びたい」という強い思いから、自ら会社を設立することにした。

設立するまでは勢いでこなしてきたが、仕事を取るためのアプローチ方法がわからずがむしゃらになり、過労で倒れ1カ月の入院生活を送ったこともあった。今は実際に演奏し、さらに動画を見てもらうことで葬儀社の理解を得ている。

人生の最後を見送る音楽は「故人が好きたった」という定義は同じでも、1曲をずっと繰り返しことや、ポップな選曲ばかりのときもある。しかしそれらはすべてご遺族が故人を偲ぶための音楽。希望に沿うアレンジを含む演奏、しかも初見は何度も経験しているのに、終わると肩の力が抜けるのを感じる。

**どのような経験も本人次第  
やる気があれば無駄にならない**

育成にも力を注ぎ「セレモニー演奏コーディネーター協会」を立ち上げ、セレモニープレイヤー養成講座を開講。エモーションのメンバーでテキストを2冊作成した。事業の全国展開のため月に何度も東京へ通い、自己研鑽の勉強会にも参加して協会の知名度を上げる努力も惜しまなかった。これほど積極的な活動ができるのは、音楽を学んだ経験を社会貢献につなげたいと考える人たちに活躍の場を提供するためだ。自身の短大卒業後の5年間の経験も今になると無駄ではなかった。幼稚園での経験は音楽教室に、大手企業で知った組織のことは会社や協会の設立に活かすことが出来ている。

「お腹にいるときから最後のセレモニーまで音楽は人生と共にあります。音楽を通して地域の皆さんの節目に携わっていただける社会づくりを目指す優しい会社になりたいのです」と、鈴木さんは目標を丁寧に言葉にしながら微笑んだ。

文/ 宍戸紀子 表紙撮影/ 曾我泉美 写真提供/ 鈴木恵さん



### 鈴木恵さん

Megumi Suzuki

1973年いわき市錦町生まれ。短大を卒業後、5年間で大手企業、医療事務、幼稚園など様々な職種を経験したが、幼少期より夢だった音楽の道があきらめられず、25歳で専門学校に入学。卒業後、2000年に「めぐみ音楽教室」を実家の父親が仕事で使用していたプレハブから開業。2005年よりセレモニープレイヤーとしても活動を始める。2014年、「株式会社Emotion」を設立。『供物献奏』は「株式会社Emotion」の商標登録。2015年には「一般財団法人セレモニー演奏コーディネーター協会」を設立。プレイヤーとしての活動のほか、育成にも力を注いでいる。



株式会社 Emotion  
いわき市石塚町東10番地の14  
TEL.0246-62-8886  
FAX.0246-84-6169

